NIE実践報告

1．タイトル：「縮約」を通して身につける小論文の力

２．学校名

北海道江差高等学校

３．実践者名（代表者名）

岩間洋之

４．学年

第２学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・１４５名

６．単元（本時の学習課題）名

小論文対策

７．目標(狙い)

小論文の書き方の基本を学ぶとともに、新聞記事（社説）を使って文章の要約技術、意見をまとめる力を身につける。

８．評価の視点

興味のある新聞記事（社説）を自ら選び、その資料をもとに小論文の基本を押さえながら文章を書くことができたか。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

日直方式で毎日、縮約のまとめ・小論文を提出

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①忘れないで縮約ノート（まとめ・小論文の書かれたもの）を朝のＳＨＲで提出させる。
②１社ではなく数社の新聞記事（社説）を用意し、生徒に自分の興味・関心のあるものを選ばせる。
③縮約は指定された文字数で書き、新聞記事（社説）に書かれた文字のみを使用することとし、勝手に自分で文章を作成したり、語尾を変えたりしない。
④小論文は、縮約したものをベースに、２本の視点で書く。
⑤縮約ノートはファイル形式とし、他の生徒が書いたものを自由に読めるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

回数を重ねることで縮約のスピードが早くなり、小論文も用意された情報（新聞記事）があるので困難なく書くことができた。

12．成果と課題

（成果）
模試や試験での国語の問題を読むスピードが早くなるなど、小論文対策だけではなく国語の読解力へも効果が見られる。
（課題）
用意された情報（新聞記事）がない状態で小論文が書けるよう力をつける必要がある。